



# 学校だより

6月号 第416号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

## いよいよ、GIGA 開きです

校長 金森 孝子

子ども一人一台への端末貸与が現実のものとなりました。山田小に5月27日28日31日の3日間、タブレット初期設定の専門チーム6名が来校し、端末・環境等を整備してくださいました。いよいよ、子どもたち全員が一人一台タブレットを用いて学習することが可能になったわけです。コロナウイルスの拡大によって、日本では5年間かけてゆるやかに実施する予定だったGIGAスクール構想が1年間で実施されることになり、山田小学校では昨年度12月から2月にかけて、Wi-Fi環境を全教室で整備するための工事が行われました。また、冬休みには、ご家庭の端末でのロイロノートの体験学習・アンケート調査を行っていただき、今年度に入ってからも、先週・今週とロイロノートを用いての欠席連絡試行など、保護者の皆様にも大きなご協力をいただいています。

「ICT教育」については、以前から児童がパソコン教室（本校では図書室）で、検索機能を用いて調べ学習に取り組んだり、プレゼンテーションソフトを使って発表したりするなど、学習を進めてきました。しかし、昨年新型コロナが世界中で猛威を振るう中、先進諸外国がいち早く、オンライン授業を実施する中で、公立学校では、ほとんどの学校で環境整備が整っていなかったため、実施することができませんでした。

2020年1月、中国の武漢から感染が広まったとき、中国の学校は春節のため学校は長期お休みに入っていました。春節明け、すぐにオンライン授業が始まりました。私が居住していた青島でも行政のアプリから、学校と家庭のオンライン学習の状況をかなり詳しく配信していました。青島日本人学校に勤務していた3年間、多くの公立の小中学校・高校と交流をしていたのですが（高校は日本語学科があったため）、どの学校もデジタルを用いた授業を行い、機材をはじめ、その教材も授業内容も驚くほど充実していることに衝撃を受けました。すべてのクラスに電子黒板が設置され、教師も子どももデジタルを使いこなしていました。そのため、たとえ休校になっても、オンライン授業をすぐに実施できたことも納得できました。その後、中国の小学校は半年近く休校措置がとられ、その間ずっとオンライン授業で学習していたということです。課題もありましたが、まったくオンラインが進まなかった日本との違いに、残念な思いをもったというのが正直なところです。日本も、やっと進むことができる・・・今の素直な気持ちです。

6月7日（月）「GIGA開き」を実施します。朝会で私や担当者から、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出すようなお話をしたいと思っています。また、「iPadは学校のものであること」「学習でつかうものであること」を確認しながら、子どもたちが安心して端末を使い、端末を用いての学びに喜びを見出していくよう、子どもたちなりにルールを考えられるような学習を、まずは進めていきます。今後とも、ご協力の程、よろしく願いいたします。



ICT支援員さんが授業に入っています！

### 水泳学習について

例年6月中旬～9月初旬まで水泳学習を実施しますが、現在、学校として感染拡大予防をした上でプール学習を実施することが、大変難しい状況にあります。しかし、小学校では、水泳学習がカリキュラムに位置づいているため、1年～5年は、来年度にその内容を持ち越し、今年度は実施しないことを決定いたしました。6年生は、6月末の段階で感染状況が劇的に収束した場合は、7月の実施を検討いたします。7月の学校だよりで、この件について、お知らせいたします。